

# しあわせの空

本校教育目標

第9号

豊かな心と生きて働く力を身に付けた子どもの育成



令和2年7月31日  
熊本市立田迎小学校  
校長 松本 公一

## ○全校集会で思うこと

本校では月に一度、全校集会を行っています。毎回、委員会の活動紹介や全校児童へのお願い、人権を考える内容等、工夫を凝らした発表ができています。発表する子どもたちは、しっかり練習をして話を聞いてくれる全員に内容を理解してもらいたいと思って本番に臨みます。発表する人、話を聞く人の様子を見ていて何か違和感がありました。それは、この光景、コンビニをはじめお店のレジの様子に似ていると思ったからです。

発表する子どもたちが、発表の始めと終わりに礼をしているのに対して、話を聞いている側の子どもたちは頭を下げていない。レジでお金を払う時、店員の方が「ありがとうございます。」と頭を下げているのに、お客は「買ってやったんだから」という態度で頭を下げないシーンと重なりました。

お辞儀の文化は海外では異様に感じられるようですね。日本もグローバル化が進みお辞儀の文化がなくなっていっているのかもしれませんが、相手が頭を下げたら自分も頭を下げるというのを習慣化できたらいいなと思います。すると将来、相手のすばらしい言動に対して頭が下がるといった謙虚な気持ちがもてるようになるのではないかと思います。

## ○親の教え

子どもの頃、親から躰けられたことはいくつになっても身に付いて離れないものだと思います。私の場合、「外で食べ物を買っても、立ち食いはしてはいけない。どんな小さなごみでも、捨てずに持って帰る。」ということをお教えされたせいか、レジャー施設やイベント等で歩きながらソフトクリームや飲み物を飲食すること、まして、コンビニ等で買ったものを道路にポイ捨てるなど抵抗があります。公共の場では他人に迷惑をかけないということをお身に付けさせてもらったと思います。

事故や災害時に順番を待ち整然と並んでいる様子、スポーツ観戦後のごみ拾いなど、日本人のマナーのよさが話題になりますが、多くの人たちが自分の親から、友人から、地域の人から教えられたことがマナーとして身に付いているからだだと思います。

学校回りを歩いてみると、たばこの空き箱・吸殻、ペットボトル、レシート、ティッシュ、コンビニ袋、空き缶・空き瓶、菓子袋、弁当ガラ、コスメ用品等、拾い集めることができます。これらのものを拾いながら、罪悪感をもっていない人なのかなあ、倫理観が育っていない人なのかなあと思います。時には植え込みの中から発見することもできます。見つからないようにという気持ち？…少しの罪悪感があるのかなとも思います。きれいな町並みは誰かが清掃しているからではなく、きれいなままの町並みを維持しようとする住民の意識の問題ではないかと思います。

学校では遠足や見学旅行に行ったときに「来たときよりも美しく」を心がけ、ごみを捨てない、落ちていたごみは拾うという指導をしています。また、教室では紙のリサイクル等ごみを減らす取り組みも行っています。

夏休みは、公共の場でのマナーを教える絶好の機会です。家族で出かけられた折には、場に応じた言動を「親の教え」として伝えていただけたらと思います。素敵な夏休みをお過ごしください。